

取組内容

- ① 内水ハザードマップの作成
- ② 洪水ハザードマップ、防災マップ等の更新
- ③ 防災ブックの改訂

それぞれの取組

① 内水ハザードマップ作成

- ・吹田市の雨水出水浸水想定区域の指定に伴い「内水ハザードマップ」を作成。
- ・原則として、洪水ハザードマップの洪水浸水想定区域を雨水出水浸水想定区域に置き換えたものとした。

② 洪水ハザードマップ、防災マップの更新

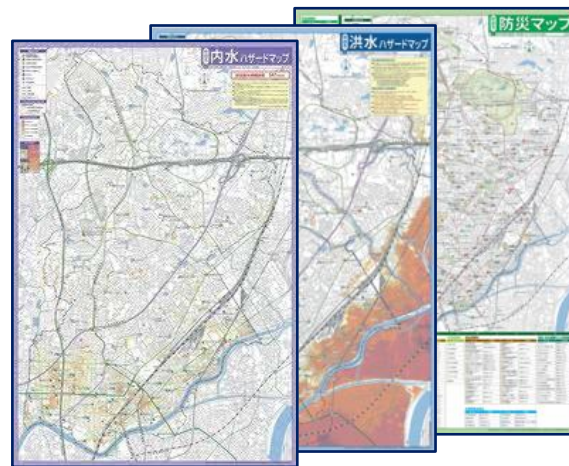
- 安威川ダムの供用開始による洪水浸水想定区域図が更新されたことに伴い「洪水ハザードマップ」を更新。
- 市内の災害時に有用な施設や道路状況などの情報を更新し、「防災マップ」へ反映。

③ 防災ブックの改訂

- 防災知識編、マップ編で構成されている防災啓発の冊子で、防災知識編においては新しい情報として「令和6年能登半島地震の教訓」、「在宅避難の取り組み方」などのトピックスの追加や各情報の時点更新を行い、マップ編においては「内水ハザードマップ」を新たに追加しました。印刷製本は20,000部。

周知方法

- 市報にて周知し、ホームページ、防災ブックにて公開
- 防災ブックは、以前全戸配布を実施しており、転入者等への配布を継続することで、全戸配布の状況を継続している



ハザードマップ

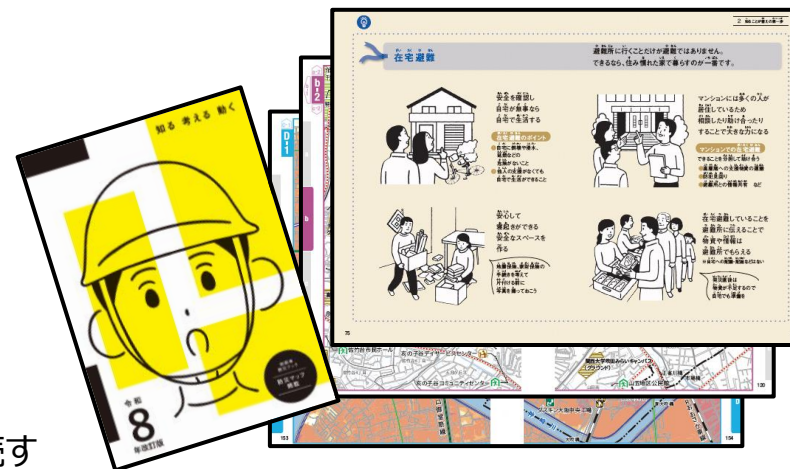


防災マップ



防災ブック

ハザードマップ すべて水防法に基づいたものに
洪水・内水HM内に土砂災害警戒区域を記載



防災ブック A5サイズ 199ページ (前回より24ページ増)

取組内容

水害リスク等を最新の情報に更新
ハザードマップ構成の見直し

● 更新の背景

① 浸水想定区域図の更新

※水防法改正により指定対象拡大

- ・内水はん濫：既往最大から**想定最大**へ
- ・外水はん濫：芥川の新規指定（国）

② ハザードマップ掲載内容の更新

- ・芥川の新規指定による**避難所の見直し**
- ・防災気象情報の変更

● 課題と対応方針

浸水想定区域図の重ね合わせによるリスク表示

① どの河川の浸水リスクか判別不可

② 避難先の把握難解

⇒ **河川ごとのハザードマップを作成**

※HM作成対象

淀川、芥川、女瀬川、檜尾川、安威川、水無瀬川
内水はん濫



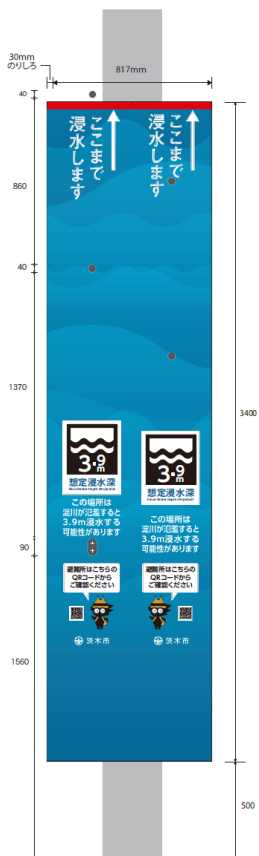
令和8年度の実施内容

| 時期 | 実施内容 |
|----|---------------|
| 4月 | HP・WEB地図情報で公表 |
| 6月 | 冊子全戸配布 |

※啓発動画作成なども予定

取組内容 南目垣二丁目交差点の電柱を浸水深表示看板でラッピング

淀川河川事務所の「まるごとまちごとハザードマップ高度化事業」を活用し、令和8年3月にまちなかの電柱2本に浸水深表示看板を設置した。（浸水深を表示したフィルムを電柱にラッピング）



浸水深表示看板
デザイン



浸水深表示看板
イメージ

南目垣二丁目交差点



浸水深表示看板
設置場所

取組内容

本市の鳥飼西小学校区で3階のWSを行い、地域版防災マップ及び啓発動画を作成した。
WS1回目：水害時の広域避難の必要性を考える。
WS2回目：校区内のまちあるきを行い、水害時の危険性や緊急避難場所等を確認
WS3回目：各関係者で、どのように水害時の広域避難について啓発を進めていくのかを検討



取組内容 民間集合住宅を避難所指定

令和7年12月に、民間集合住宅の管理組合と「大規模な水害および地震発生時における指定避難所の指定に関する協定書」を締結し、大規模災害時における避難所の指定を行った。また、令和8年度には、避難所で必要となる備蓄品の購入を進めている。さらに、今後は避難所の開設訓練を実施し、具体的な開設方法や避難者の移動ルートを確認を行う。

【避難所の概要】

収容人数：約60人

面積：102㎡

提供する備蓄品：備蓄食料、毛布、テント、携帯トイレ、止水板、発電機

避難スペース**備蓄品**

取組内容 水害ハザードマップの作成・周知

令和4年度

- 中小河川※の浸水想定区域図を水害ハザードマップに追加（5月～）
- 市役所・各区役所などで周知・配架

令和5年度

- 令和5年12月に安威川の浸水想定が更新されたことを受けて、既存の水害ハザードマップに差込版として新たな浸水想定区域図を追加した。（令和6年3月～）
- 市役所・各区役所などで周知・配架

令和6年度以降

- 市役所・各区役所などで周知・配架
- 市が出展するイベント等で周知・配架

(水害ハザードマップ)

(水害ハザードマップ差込版)

取組内容 気象庁の業務内容を自治体主催の地域防災総合訓練等において展示ブースを複数回出展し紹介

令和7年度茨木市市民水害対策訓練（R7.9.27）

- 本訓練は、茨木市で想定される水害リスクや自助による備えの理解を深め、避難に対する意識の変革を図ることを目的として実施されました。
- 当台は、展示ブース対応として、転倒ます型雨量計の展示や、液状化実験、竜巻や雲の発生の実験、パネル展示及びリーフレットを配布し、当庁の業務に関する普及啓発を行いました。
- 当台の展示ブースは職員4名で対応しましたが、その状況の写真を撮る間もないくらいの盛況となりました。
- 途中、茨木市長が表敬訪問され、雨量計の説明に熱心に耳を傾けられ、各種実験にも積極的に取り組まれていました。特に「はれるん」との記念撮影時には、満面の笑顔で応じていただきました。
- 気象台ブースへの来訪者は、子どもより大人の方が多かったため、雨量計や各種実験に係る説明に熱心に聞き入られてました。



展示物の内容
 (左) はれるん帽子も用意（記念写真多数）
 (中) 液状化実験・転倒ます型雨量計
 (右) 竜巻の作る実験・雲を作る実験

吹田市地域防災総合訓練（R7.10.25）

- 午前中は吹田市全域で震度6強を想定した実働訓練、午後は多くの吹田市職員が参加しての防災運動会が開催されました。
- 令和7年度よりワークショップが新たなメニューに追加され、気象台は「急な大雨から身を守ろう」をテーマとしたワークショップを行いました。
- ブース出展を行い、パネル展示、雲を作る実験、竜巻の実験を見てもらいました。各ブースでスタンプラリーをしていたので、気象台は「気象業務を開始して今年で何年か」というクイズに答えてもらいながら、ブース訪問者にスタンプを押しました。
- 気象台ブースには200名ほどのお客さんに来ていただきました。



(左) クイズを出題している様子、(右) 気象台のワークショップの様子